

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103722
法人名	有限会社 アイファミリー
事業所名	グループホーム ファミリー
所在地	愛媛県松山市北梅本町甲3264番地
自己評価作成日	平成29年2月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな住宅街や田畑が近辺に有るため、ゆっくりと散歩したり、リラックスした雰囲気や地域の方と交流できている。施設保有の畑で作られた無農薬野菜を中心としたメニュー作りをして、食卓を飾っています。おせち料理、季節の料理屋おやつなど職員の手作りで、季節感を大切に食事は利用者やご家族様にも喜ばれています。野菜の下ごしらえには、職員と利用者一緒にするなど、家庭的な雰囲気の施設です。家族や友人もよく面会に来られ、運営推進会議やイベント時たくさん参加指定下さいます。本年度より胃ろうの利用者様の入居も数名お受けしました。ご家族様や引受人様のご要望に幅広く応えられる施設に職員一同で邁進しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関周りには、プランターに花を植えている。玄関や居間には桜や菜の花、小でまり等の花を活けていた。廊下には、職員と利用者で作った貼り絵を飾っている。又、居間には、利用者の写真が飾ってあった。食後は、童謡を流しており、テレビを見たり、ジグソーパズルをしたりしている方がいた。
入居時には、馴染みの場所や馴染みの人等についても聞き取り、面会可能な人を把握するように取り組んでいる。家族と現地で待ち合わせて、お墓参りを支援した事例がある。知人が面会に来た時には居室に案内し、お茶を出してゆっくり過ごせるよう配慮している。帰り際には「また来て下さい」と声かけをしている。
地域の公民館主催「三世代交流バスツアー」に参加するため、介護計画に歩行訓練やりハビリを採り入れて参加できるよう、支援したようなケースがある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームファミリー

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 満田 貴子

評価完了日 29年 2月 25日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 基本理念「無理をせず、あなたのやりたいことをしましょう、私たちがお手伝いしますから」をケアのポイントに置き、利用者様個々の速やかなケアが出来るよう、職員の話し合いをこまめにして、職員間で確認し合い、実践している。	
			(外部評価) 理念は、各ユニットの居間の掲示板に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域で行われている行事(文化祭、秋祭り)等に積極的に参加している。職員が地元小学校のPTA役員活動を通して、当施設の名前や場所を認識して頂いた地域の方々から、「これ使って下さい」といりいな物資提供等のご支援が頻繁になった。「まもる君の家」にも協力させて頂き、地元の人や施設前を通る学生の皆さんにご利用して頂いている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、職員は溝掃除等に参加している。地域の方からは、余剰品や野菜等の差し入れがある。秋祭りには、駐車場に神輿や獅子舞が来て、近所の方も集まり一緒に見学等している。事業所内の見学に来る方もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地元の町内掃除や防災訓練も欠かさず、参加している。最近では、そうした行事について、わざわざ案内状や声掛けをして下さる。またケアマネージャーが同じ町内に住んでいるので、町内の情報や地域の方々のコミュニケーションもケアマネージャーを通して、スムーズに行えている。地域の行事や学校で、認知症の事や介護の相談も時々受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 毎回たくさんの家族様や民生委員・警察官の方々が参加して下さり、なじみの関係をつくれている。そうした事もあり、新しい家族様も参加しやすい環境になっている。いい関係をつくれているので、難しい議題やサービス向上の変更事も話しやすく、意見も発言しやすい場になっている。	いろいろな立場の方が集まれるような会議に工夫してほしい。利用者も参加できるように工夫してはどうだろうか。
			(外部評価) 会議は、1階ユニットの居間で行っており、その間、利用者は、2階ユニットで過ごしている。家族や地域の方、市の担当者の参加があり、警察の方も参加している。欠席した家族には、来訪時に内容を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センター、介護保険課や福祉事務所の方々と、日頃から連絡を密接にとっている。利用者様の事、家族様の事や疑問点があった時には、速やかに相談して頂き、不安な事項は無い。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、市の担当者が、成年後見制度について説明してくれたり、感染症等の注意喚起やアドバイスしてくれたりする。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議でも一年に一回は取り上げているが、施設側の考え方には溝がある。どうしてもしないといけない方には、利用者も含めて、家族様との話し合いや月間記録も密に記したことで、年々家族様側も理解をして下さり、身体拘束をしないケアが格段に増えていった。	
			(外部評価) 転倒の心配がある利用者には、床に畳を敷いて対応したり、感知式センサーを置いたりして対応している。車椅子から立ち上がったたり、歩行が不安定な方について、家族から安全ベルト着用の要望があるが、身体拘束はできないことを話し、見守りを強化して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職場内外研修を通して、日頃の言葉掛けやコミュニケーションのとり方を勉強している。職員の精神的な介護ストレスが虐待に向かわないように、休憩時間や食事作りの代用職員など数名雇い入れ、気持ちの余裕が持てるように心掛けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人を利用されている利用者がおられるため、管理者や職員は、理解して支援できている。また運営推進会議にも参加して下さるので、家族様にもそうした制度を学ぶ機会になっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所希望の見学の時から、双方の意見や話し合いを数回重ねるようにしている。具体例もあわせて説明しているため、不安や問題点が無いように理解して、契約して頂けるように心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営やケアの事項で変更事や相談したい時には、運営推進会議で事細やかな問題点等を話し合える場になっている。運営の立場からはとてもありがたく思っている。それらの意見は、ケアのサービスや職員勉強会にも反映させ、問題伝があれば、職員一体となり取り組んでいる。取り組みへのスピードは他の施設より反映させやすい点が良いと思う。 (外部評価) 家族来訪時には、「外出日記」や「支援日誌」を見ながら生活の様子を報告している。又、足遠い家族には、毎月の請求書、出納帳のコピーとともに、「支援日誌」「外出日記」も送付している。運営推進会議には、5～7名の家族が出席しており、感謝の言葉が多い。食事会や敬老会、花見等の時には家族にも案内している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 迅速に対応しなければいけない意見や提案は、毎日の朝礼等で話し合うことが多い。また全職員にて取り組まないといけないような時は、職員勉強会にて意見を聞き、話し合うことにしている。	
			(外部評価) 職員会議時には、勉強会や業務改善、利用者のケア等について話し合っている。内容は申し送りノートで共有している。統括部長の提案から、食事作り担当職員を配置して、職員の負担軽減を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の実績や勤務状況などが優れた数名の職員には、給与アップをしている。処遇改善などの加算も利用しているので、職員の給与水準も納得してもらっていると思う。短期労働時間の希望職員の採用や資格所得目的の休暇もとりやすした。休憩時間専門や食事づくりの職員も雇用しているので、ゆとりをもって勤務して頂いていると思う。	
			(外部評価) 職員の実績や勤務状況などが優れた数名の職員には、給与アップをしている。処遇改善などの加算も利用しているので、職員の給与水準も納得してもらっていると思う。短期労働時間の希望職員の採用や資格所得目的の休暇もとりやすした。休憩時間専門や食事づくりの職員も雇用しているので、ゆとりをもって勤務して頂いていると思う。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の職場外研修は、毎年受講してもらっている。研修報告書の内容が優れている場合は、運営推進会議や職員勉強会で発表してもらったり、実際にケアの一部に取り入れたこともある。	
			(外部評価) 職員の職場外研修は、毎年受講してもらっている。研修報告書の内容が優れている場合は、運営推進会議や職員勉強会で発表してもらったり、実際にケアの一部に取り入れたこともある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者をはじめ、ケアマネージャーや職員には小野久米地区のグループホームの集いや医師会等の認知症に関する話し合いに勉強に行き、他施設との違いや現在の認知症や医療情報を知り、改善して貰っている。	
			(外部評価) 管理者をはじめ、ケアマネージャーや職員には小野久米地区のグループホームの集いや医師会等の認知症に関する話し合いに勉強に行き、他施設との違いや現在の認知症や医療情報を知り、改善して貰っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用が始める前から、本人や家族等からよく話を持つことに心掛けている。何回か面談させて頂く中で、信頼関係が得られるように心掛けている。職員だけでなく、利用者同士でのより良いコミュニケーションが得られるようにも支援している。	
			(外部評価) 利用が始める前から、本人や家族等からよく話を持つことに心掛けている。何回か面談させて頂く中で、信頼関係が得られるように心掛けている。職員だけでなく、利用者同士でのより良いコミュニケーションが得られるようにも支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居希望の見学や面会時、また電話での問い合わせの際も、何を欲しているかや要望等を話から読み取り、丁寧に説明している。また、いつでも相談して頂けるような信頼関係を築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居希望時から、話し合いの場をたくさん持ち、利用者の以前の生活、環境等を把握して、サービスに反映できるようにしている。また必要な支援が出た場合は、以前のかかりつけ医、ケアマネージャー等にお聞きして、利用者や家族様と話し合い、迅速に対応するように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者が自立した生活が送れるように職員と利用者がともに支えあえるような関係を築き、援助を行えるように心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 運営推進会議でも毎年数回、家族様と利用者との関係性と職員の役割を話し合うことがあった。家族様やご親戚の面会は頻繁にあり、家族様と利用者様との絆は、職員が常日頃から支援し、必要性を感じて頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族以外にも元職場やご近所の方、お友達や遠いご親戚が面会に来られる時は、管理者や職員でその方々の名前や顔を覚える事で、次回からも気軽に面会や電話して頂けるように心掛けている。散発、外出先や地域の行事では、いつも支援して下さる方に来所していただいたりして、馴染みの関係が続くように支援している。 (外部評価) 入居時には馴染みの場所や馴染みの人等についても聞き取り、面会可能な人を把握するように取り組んでいる。家族と現地で待ち合わせて、お墓参りを支援した事例がある。知人が面会に来た時には居室に案内し、お茶を出してゆっくり過ごせるよう配慮している。帰り際には「また来てください」と声かけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 身体的な介護以外では、みな同じようなコミュニケーションを保てるようにして、疎外感や孤立感を生まないように気をつけている。上手にコミュニケーションがとれない利用者には、職員が間に入り、利用者同士のかかわりがスムーズになるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院などで退去後も、引き継がれたケアマネージャーや病院関係者への支援をする。また、家族様が必要と感じた場合は、包括支援センターや必要であろう関係施設を紹介する。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各階で勤務する職員をほぼ固定して勤務する体制にしたおかげで、日常生活から利用者や家族様の要望や意向を聞きやすい環境にした。それらをカンファレンス等で取り上げて、ケアプランへと繋げている。	
			(外部評価) 基本情報、医療情報とともに「私の姿と気持ち」「今の私」シートの用紙に、思いや暮らし方の希望、意向等を記入して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人、家族や以前の担当ケアマネージャーなどから生活歴や趣味等をお聞きして、馴染みの生活が日々の生活の中で生かせるように心掛けている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者ごとに一日の生活(排泄、バイタル等)を記録し、また介護ケア以外の個別支援も記録するようにした。個別支援の中で、日々の体調や心理変化を早期に見つけられるようになり、現状の把握とケアの改善に努められるようになった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 朝礼を含め、小さなカンファレンスは、ほぼ毎週するようになった。何が困っている点かを利用者、家族様以外にもかかりつけ医、協力医、理学療法士や薬剤師とも相談するようにして、利用者が本当に必要な介護計画を作るように努めている。</p> <p>(外部評価) 介護計画作成は、「利用者にとって今、一番必要なことはなにか」を考えて立てている。日々のケア記録には、介護計画と連動して、支援内容、職員の判断や対応を記録している。計画作成担当者は、日々のケア記録をもとに「支援経過記録」としてまとめており、3ヶ月ごとの見直しにつなげている。地域の公民館主催「三世代交流バスツアー」に参加するため、介護計画に歩行訓練やリハビリを採り入れて参加できるよう、支援したようなケースがある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケース記録に記録しやすいように、介護サービス日誌を新たに作り、それと連動して記載してもらう事で、個別のケアが実践されているかがわかり易くなった。ケアプランや実施目標等は、職員間で回覧し、確認しあい、情報を共有している。改善点等も速やかに提案しあえるようになった。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の柔軟な支援に対応するためにも、常日頃からのコミュニケーションや信頼関係の強化を重視している。家族が一番希望される病院介助や外出もほとんど職員が行っている。また家族が希望される場合は、胃ろうの利用者様の受け入れも始めた。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 秋祭りでは、神輿や獅子舞をたくさんの地域住民や子供さんが毎年楽しみにしてホームに来られる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 月2回、各利用者のかかりつけ医が往診して下る。協力医が増え、医療や栄養等の相談ごとにも相談しやすい関係を築けている。各利用者ごとに健康状態表を記録し、かかりつけいや急変時の病院対応でも伝えやすくなっている。受診の際も、ほぼ職員が同行して、家族様からの質問や不明点を職員が病院との間に入って支援している。</p> <p>(外部評価) 協力医が複数あり、入居時にそれぞれ説明し、利用者の状況を踏まえて、納得のいく医療機関で診てもらえるよう支援している。受診は職員が同行し、支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 看護師・準看護師免許を持った介護職員が、体調変化など気になった点を訪問看護師に伝えて、かかりつけ医や協力医との連携体制をとり、往診や看護をして頂いている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 日頃から入院などが考えられる利用者には、迅速な入院や緊急搬送に備えて、かかりつけ医と情報交換している。また入院先には、頻繁に訪問したり、病院関係者に電話して関係作りに努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、年に一回は議題で取り上げます。その際だけでなく、日頃から家族様には終末期や重篤になった場合の事が気軽に話し合えるようにしています。また、かかりつけ意図の指導の下、重度化した場合や終末期のあり方について、利用者、家族様や職員一体になって、話し合いを重ねるようにしている。毎年、2～3人の看取り介護を行っています。</p> <p>(外部評価) 入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」「看取り介護について」を説明し、看取り支援が可能であることを説明している。状態変化があれば、主治医、家族、職員で話し合い、方針を決めて支援している。統括部長は、いつでも連絡がつくようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時や事故時の対応マニュアルを作成している。利用者の急変時に備えて、利用者情報のファイルをすぐに手にして対応出来るように目に付く場所に置いている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時の対応マニュアルは、夜間用にも改めて作り、職員に周知しており、定期的に訓練を行っている。地区の防災訓練にも毎年参加しており、地域防災担当者との協力関係も取れている。夜間時の火災や地震および水害等の避難訓練を毎年、想定を代えて交互に行っている。 (外部評価) 管理者と統括部長は、地域の防災訓練に参加し、煙の体験や簡易タンカーでの避難方法等を勉強し、運営推進会議時に報告した。今年度は、水害や土砂災害について自主訓練を行った。各居室のタンスの下にはストッパー、ロッカーには固定棒を付けて、地震対策を講じている。	避難訓練実施から課題を見つけて、次の訓練に活かしてほしい。地域の協力体制を築いていけるような取り組みもおすすめしてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 時間が掛かっても、各利用者がしたいことをしていただけるように、見守りにて対応している。声を掛けすぎない、手を出しすぎないように職員には話して、対応してもらっている。 (外部評価) 食事時や口腔ケア時、職員は、丁寧にゆっくりと声かけしながら支援していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定が可能な利用者については、本人の思いや希望に沿ったケアをするように心掛けている。また自己決定が難しい方も、生活の一部のケアを出来るだけご自身でしていただける工夫を職員が考えて、サポートすることで本人の思いもふと出てくるようになった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事やおやつの時間などは声を掛けるが、掛けすぎないようにし、利用者が何かをしている時は、こころよく過ごしてもらっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 送迎つきの理容室や介護福祉士の免許を持った地元の美容師さんを利用しています。長年利用している理容師さんや美容師さんなので、利用者さんもおしゃべりを楽しみにしておられます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自家菜園で作られた野菜を中心としたメニューにしているの、下ごしらえ等を利用者と職員でします。時節の野菜が出始めの時や下ごしらえをした野菜が使われた食事の時は、そうしたことを話しながら、食事を楽しんでいます。また季節のイベント時や利用者様から希望があった時等に仕出し弁当を召し上がって頂いています。	
			(外部評価) 菜園で採れた野菜を使用した献立を、利用者の希望を聞きながら立て調理している。職員は、同じ食事を利用者と一緒に食べていた。ゆっくりのペースで食事する方には、時間をかけて見守りながら支援していた。食後は歯ブラシや舌ブラシを使って口腔ケアを支援していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の咀嚼や嚥下状況に応じた食事形態で食事を提供している。水分量は、全利用者の一日の摂取量を記録して、職員が把握出来るようにしている。食べる量などは、各利用者の必要性や状態に日頃から日々変わる時には速やかにその方にあった支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 誤嚥性肺炎の講演にて口腔ケアの重要性を勉強したので、舌のブラシや口腔ガーゼも取り入れるようになり、口腔ケアには力を入れている。義歯の調整も積極的に受診して頂けるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>排泄のパターンを知るために、排便記録表を記している。利用者によっては、排尿量も常に計って、職員が排泄の状態を把握してもらっている。排泄時間や排泄状態を知ることで、ポータブルトイレなどを利用したりしておむつからトイレで排泄出来る利用者が増えた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々の排泄パターンを把握して声かけや誘導を行っている。職員の気付きから、尿量を測って膀胱炎の早期発見につながった事例がある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排便記録表、服薬表、水分チェック表やその日のバイタル状態を毎朝の朝礼と夕方の申し送りにて、職員に把握してもらっている。またここ数年、ノロウイルス対策でラクトフェリン入りのヨーグルトや錠剤を召し上がって頂いている。病気予防ではじめたのですが、便秘解消や排便のにおいの軽減に加え、利用者が毎日召し上がられる楽しみの3点の利点もプラスされました。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者にあった職員が対応することで、リラックスして入浴してもらえている。お風呂が嫌いな利用者には、声掛けを工夫して、対応している。また頻繁に入浴したい利用者には、出来るだけは2日に1回の割合で入浴できるように支援している。また長風呂が好きな利用者には、体調の変化が無いかを頻繁に見守りながら、入浴を楽しんで頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>3日に1回入浴するよう支援している。自分の好みのシャンプーを使う利用者もある。職員との会話を楽しみながらゆっくり入る方もある。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者本人の希望や様子に応じて、休息して頂いている。気持ちよく眠れるように、布団などに工夫をしたり、日中のリハビリやマッサージなどでリラックス出来るよう心掛けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋は、職員が見られるようにファイルしている。変更時は申し送り時に伝え、職員に周知してもらっている。体調や症状の変化が見られた場合には、迅速に対応出来るように協力医や薬剤師との連携を図っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 介護以外の個別の支援を記録したり、それらを使って職員や家族と話し合い、利用者や家族の希望に添える支援を行っている。みんなでわらべ歌や歌謡曲を歌ったり、伊予弁カルタなどのカードゲームをするのが多い。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) リハビリ受診や病院受診がほぼ毎日あるため、みんな出揃って外出にはならない。個別にお連れして、外食や喫茶店、また買い物を楽しんで頂いている。外出日誌や個別支援表を作り、家族様にも把握して頂いている。最近、家族様よりのご希望で、利用者、家族様と職員で、墓参りや買い物の外出支援をさせて頂くことが増えた。 (外部評価) 散歩や買い物等、個々の希望に沿った支援に努めている。受診の帰りにドライブしたり、外食を楽しむこともある。菜の花、菖蒲等、季節の花を見に行ったり、車椅子の方も、天気の良い日には、玄関先に出て過ごせるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時には、ご本人で支払っていただきますが、施設内では、事務所の金庫にて保管しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が電話などを使いやすいように、声掛けなどを行っている。希望時には、自由に電話を使ってもらっています。また手紙や荷物のやり取りもご本人にお任せしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>女性の利用者が多い施設ですので、季節の花々を飾るように心掛けています。ほぼ寝たきりの利用者には、季節の花を居室の目に付く場所に飾り、楽しんで頂いている。また、塗り絵や貼り絵等を利用者と職員で制作して、壁に飾って楽しんでいます。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関周りには、プランターに花を植えている。玄関や居間には桜や菜の花、小でまり等の花を活けていた。廊下には、職員と利用者で作った貼り絵を飾っている。又、居間には、利用者の写真が飾ってあった。食後には、童謡を流しており、テレビを見たり、ジグソーパズルをしたりしている方がいた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>リビングやダイニングはもちろん、2階の利用者が1階で過ごしたりと自由に出来るように、見守り・支援している。思い思いの場所で過ごしてもらうために、見守り重視の時も多い。職員が、利用者がどう過ごしたいかやどこでどうしたいかなどを日頃から把握して、快適に過ごしてもらえるように支援している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>好きな物や馴染みの物などを自由に飾って頂いている。家族と相談して、使い慣れたもの(椅子や日用品)を持ってきて頂き、居室で過ごされている方もおられる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、ベッド、ロッカー、タンスが備え付けられている。テレビや仏壇を持ち込んでいる方もある。家族が加湿器を用意している居室もあった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自立した生活を送ってもらえるよう、陣間センサーなどが必要に応じて使っている。ダイニングテーブルの周りのスペースを多くとるようにしている。転倒リスクの高い方には、たんすやベッドを除いて、畳の上に布団を敷き、休んで頂いている。</p>	